

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
116	政治学演習 (中村英俊)	通年	3年以上：4単位	中村 英俊 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

国際政治の理論と現実 - 英国学派を中心に

授業概要  
Course Description

EU・ヨーロッパ統合、アジアの地域統合、国際連合、G8 / G20サミット、核拡散問題、エネルギー問題、気候変動問題など国際関係・国際政治の事例について、その本質（「現実」）を研究（理解・説明・分析）する上で、私たちは一定の理論的枠組みを必要とする。国際政治の理論研究は、第二次世界戦争後、アメリカの学界を舞台に発展してきたと言える。そこでは、リアリズムとリベラリズムの間のパラダイム論争が重要な位置を占めてきた。しかし、大西洋の反対側・英国の国際政治学界では、アメリカの学問的流行とは一線を画した、独特な理論研究が積み重ねられてきた。「英国学派」（English School）と呼ばれる国際政治の見方を身に付けることが、本演習の基本的目標である。

本演習では、まず第1段階として、邦語・邦訳文献を中心にした輪読を通して、主としてアメリカ国際政治学界で展開してきたリアリズムとリベラリズムの論争について概観したい。この段階では、下記の参考文献（1）（2）などを読み込むことになる。つぎの第2段階では、「英国学派」の国際政治理論について、参考文献（3）（4）などで基礎知識を身に付けた後、より専門的な英語文献に取り組みたい。具体的には、英国国際政治学会（BISA）のReview of International Studies誌、および、英王立国際問題研究所（RIIA）のInternational Affairs誌などから各自が関心を寄せるテーマの論文を選び、報告・輪読の作業を重ねる。この段階で、各自が研究テーマを絞り込む作業を始めることになる。最後に第3段階では、それまでの理論研究の成果を踏まえて、各自が事例研究のテーマを決定する。そして最終的に、理論研究と事例研究が上手く融合するゼミナール論文を完成してもらう。

授業の到達目標  
Objectives

本演習の3年（政治学演習）春学期には参考文献（2）の英語原著を輪読し、夏季休業中に各自の研究テーマを考え始め、秋学期には各自のテーマに即した先行研究（学術誌の英語論文）を輪読する。3年終了時点では、タームペーパーを提出してもらう。

4年（政治学演習）への過渡期（2 - 3月）に、同タームペーパーに基づく報告会を開催し、ゼミナール論文完成へ向けての課題を自覚してもらうことになるだろう。4年春学期には、ゼミナール論文の中間報告を重ね、特に夏季休業中には（3年生も前にして）全員参加の報告会を開催する。4年秋学期で完成させるゼミナール論文については、春季休業中に口頭試験ないしは最終報告会を開催することにする。

授業計画  
Course Schedule

< 政治学演習（3年）>

第1回：オリエンテーション

第2回：国際政治の研究テーマ

第3回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 1）

第4回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 2）

第5回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 3）

第6回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 4）

第7回：先行研究の調査実習

第8回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 5）

第9回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 6）

第10回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 7）

第11回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 8）

第12回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 9）

第13回：国際政治の理論と現実：各自の研究テーマの選定

第14回：各自の研究テーマに関する先行研究の検討

第15回：報告会：各自の暫定的研究テーマについて

第16回：研究テーマ報告：英語文献（先行研究）の紹介を中心に（1）（2）

第17回：研究テーマ報告：英語文献（先行研究）の紹介を中心に（3）（4）

第18回：研究テーマ報告：英語文献（先行研究）の紹介を中心に（5）（6）

第19回：研究テーマ報告：英語文献（先行研究）の紹介を中心に（7）（8）

第20回：研究テーマ報告：英語文献（先行研究）の紹介を中心に（9）（10）

第21回：研究テーマ報告：英語文献（先行研究）の紹介を中心に（11）（12）

第22回：研究テーマ報告：英語文献（先行研究）の紹介を中心に（13）（14）

第23回：研究テーマ報告：英語文献（先行研究）の紹介を中心に（15）（16）  
 第24回：研究テーマ報告：英語文献（先行研究）の紹介を中心に（17）（18）  
 第25回 - 第30回：タームペーパー中間報告  
 <政治学演習（4年）>  
 第1回 - 第20回：ゼミナール論文中間報告  
 第21回 - 第30回：ゼミナール論文報告

教科書  
Textbook(s)

参考文献  
Reference Book(s)

- (1) 鴨 武彦ほか編『リーディングス・国際政治経済システム』（全4巻、有斐閣）特に、第1巻『主権国家を超えて』と第4巻『新しい世界システム』  
 (2) ジョセフ・S・ナイ『国際紛争：理論と歴史』（田中明彦・村田晃嗣訳、有斐閣）  
 \*英語原著最新版：Joseph S. Nye and David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History (8th Edition)  
 (3) ヘドリー・ブル『国際社会論：アナキカル・ソサイエティ』（白杵英一訳、岩波書店）  
 (4) Robert Jackson and Georg Sorensen, Introduction to International Relations

評価方法  
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	40 %	タームペーパー / ゼミナール論文の内容と口頭報告。
レポート Report(s)	30 %	レジュメに基づく報告（春学期・夏季・秋学期各1回以上）。
平常点評価 Class Participation	30 %	出席およびディスカッションへの積極的な参加姿勢（毎回、最低1回は発言してもらう）。
その他 Other	%	

備考  
Note

関連科目：国際機構論、現代国際関係論、国際政治学、国際政治史、国際法など。オープン教育センターの「テーマスタディ（全学共通副専攻）」の中では、「EU・欧州統合研究」、「国際協力」など。  
 学生に対する要望： 厳しく楽しいゼミを創りたいと思います。積極的かつ主体的に参加してくれる人の応募を待っています。  
 留意事項：毎週木曜5時限のゼミは時間を延長して（6時限も）ジックリと議論を深めます。夏季休業中のゼミ合宿（予定）へも参加してください。なお、2012年度春学期は、特別研究期間のため、土曜日などに集中講義形式で「補講」を実施することがあります。

関連URL  
URLs for References

[http://taiken-waseda.jp/gakumon/zemi\\_nakamura\\_hidetoshi.html](http://taiken-waseda.jp/gakumon/zemi_nakamura_hidetoshi.html)